

あおぞら

発行：愛知県被災者支援センター

住所：名古屋市中区三の丸 3-2-1

愛知県東大手庁舎 1階

TEL：052-954-6722

FAX：052-954-6993

開館：月～金 10～17時



東北復興支援（飛島村さつま芋、野菜作り）ボランティアに参加して ～ 伊勢湾台風の経験から ～

この度は、被災者の方々と共にサツマイモ、野菜作りに参加をさせて頂き、ありがとうございました。そのきっかけになったことは、妻の勧めがあったことです。私は会社人間として、ずっと働いて参りました。ただいま63歳となり、私も何か人様のお役に立つことを常々考えておりました。妻より、被災者の方々の現状を聞き、私も54年前のことを思い出しました。

昭和34年9月26日、その時私は小学3年生でした。夜8時頃風雨が強くなり、停電になってしまいました。そのうち、ゴーと言う音と共に雨戸が外れ、あっという間に水が入って来たのです。畳が浮き、私は流されそうになり、あわや死にそうになりました。その瞬間、父が「逃げないかん!」と言って、私を抱きかかえてくれ、裏の堤防へ逃げました。後になって、父が「あの時堤防へ逃げるにも真っ暗で、その上水の勢いが強いため裏の堤防へ登り、屋根に上がって助かったんだ」と、聞かされました。同級生の中でも、何人かの人たちが犠牲になりました。数日後、ヘリコプターに乗せてもらい、姉と疎開することになりました。その時家族と離れ、不安もたくさんありましたが、疎開先の方たち、学校の先生、同級生の方たちからの暖かい気配り、支援があり、楽しい生活を送ることができました。

現在被災された多くの家族の方々の苦しみを思いますと、少しでもお役に立てたらとの思いで、参加しました。イモの植え付け/収穫祭の時、私は近鉄蟹江駅へお迎えに行き、陸前高



田市から避難されて来てみえる方のお話を伺いました。想像以上に深刻な様子に、私は胸が痛みました。そのような中でも夫婦力を合わせ一生懸命生きていかれる姿に、逆に私も頑張ろうという力を貰いました。又、小さな子どもたちが虫を捕まえたり、植物に触れたり、元気に田んぼを走り回る姿に、我が家の孫の年齢と同じ位でもあり、この小さな子ども達の笑顔を決して奪ってはならない、と強く思いました。

現在、被ばくと言う大きな課題があります。元気に元の生活に早く戻れます様に祈る思いです。

この度、五月から十月まで、いろいろな方とふれあう事が出来ました。そして、人の話をしっかりと聞いて行こうと思います。人は一人では生きて行くことは出来ません。皆様が幸せになります様に、私もこの度の体験を通してこれからも微力ではありますが、皆様のお力になればと思います。本当にお世話になりました。

（飛島村 有志会 橋本 正二、千草）

「めぐりあい交流キャンプ」と 「ふるさと交流会 in Nissin バーベキュー大会」に参加して

私の勤務する「みどり菜の花保育園」は、緑区の中でも開発、住宅建設がすすみ人口増加の著しい地域です。私たちの保育園に、原発事故・津波により避難された家族の方々がみえます。入園後、お母さんたちは、子どもたちが戸外で身体中を使って遊ぶ姿をみながら「砂に関わって遊べることの幸せ」や「散歩に出かけ虫や花に自由に関われる幸せ」を伝えてくれました。

アゲハチョウの羽化を、今か今かと心待ちにする子どもたち。自分たちの育てたピーマンやきゅうりを、苦手な子どもたちも「食べてみようかな～」と挑戦する姿。そんな姿をみながら改めて、子どもたちは自然と関わる中でたくさんの感動や発見をし、学んでいくのだと実感しています。一方で、原発事故のため放射線量を常に気にしながら過ごさなければならない子どもたちが現実にいることを身近に感じた時、住む地域によって大きな格差が生まれている現実には深い憤りを覚えます。

この夏私は、恒例の「めぐりあい交流キャンプ in おなび」に参加しました。岐阜県の大自然の中、大人も子どもも川遊びやキャンプファイヤー、探検を心ゆくまで楽しみました。魚のつかみ取りに歓声をあげ、川の流れに身をまかせ何度もなんども浮かんで楽しむ子どもたち。夜は、時間も忘れ心ゆくまで大人同士語り合うキャンプでした。被災された皆さんにとってふるさとに残ることも、離れることも心の揺らぐ辛い選択なのに、その明るさ、パワーに驚き私たちが元気をもらったキャンプでもありました。

10月5日(日)には、愛知牧場での「ふる



さと交流会 in Nissin バーベキュー大会」にも参加しました。キャンプで出会った子どもたちが覚えていてあたたかく出迎えてくれました。どんぐりを拾いながら散歩し、牛の大きな瞳に語りかけられ、やぎやうさぎと触れ合う時間はあっという間に過ぎていきました。子どもたちの、やぎをさすってやり、うさぎに何度も餌をあげる姿は動物を愛おしく思う気持ちで溢れていました。身近に動物がいることが当たり前の生活なのだと感じつつ、これからも保育園の職員として「交流会に参加しよう」と心に決めた秋の一日でした。

「原発は安全」と言い切る翌日に、汚染水が海に流出していたことが明るみにでるなど、何を信頼して良いのかわからない今、私たち大人が真実にしっかり目を向け、疑問や思いを口に出すことがとても大切だと思います。子どもたち一人ひとりが大切にされる国に変えるために、私たちに何ができるのか～ 日々の仕事づくりとあわせ皆さんとともにこれからも知恵を出しあい、行動しともに歩んでいきたいと思っています。

(社会福祉法人 名古屋キリスト教社会館
みどり菜の花保育園 柏本 多恵子)



第12回子育てつどいの広場

今回の参加人数は、5世帯、大人7人、子ども6人の計13人でした。

10月20日、ずっと楽しみにしていた『子育てつどいの広場 in 瑞穂区』に参加して来ました。

色々な交流会でお友達になった子と遊べるのを楽しみにしている3歳の娘との参加です。

大人達は楽しく語らい、その間、子ども達はボランティアの方々と色々な遊具で遊んでもらい、とても喜んでいました。

あつという間にお昼になって、ボラみみ定番の美味しいお好み焼きをみんなでいただき、大人達はそのままティータイムに入りゆっくり話に花をさかせました。

来月の11月17日には第13回が開催されます。今から娘と2人でとても楽しみにしています。

ボランティアスタッフの皆様、お世話になり本当にありがとうございます。

またこれからもよろしくお願い致します。

(ペンネーム：トムとジェリー)

＜お知らせ＞

1) 次の子育てつどいの広場は第14回を12月15日、第15回を1月19日に予定しています。詳細は同封のチラシをご覧ください。

2) 「赤いランドセル(新品)」が、わずかあります。直接ご来所いただくか、送料着払いでお渡しできます。必要な方は早めにご連絡下さい。年齢制限はありません。

3) ボラみみより情報ステーションは、火曜・日曜・祝日をのぞく、月～土曜日の10時～16時に開設しています。冷暖房完備です。駐車場あり。通常、入会金が必要ですが、「あおぞら」をご持参いただければ、入会金不要です。1月末まで。

詳しくは、

ボラみみより情報ステーション

boramimist@yahoo.co.jp まで

〒467-0842 名古屋市瑞穂区妙音通 2-40

横山ビル 1 階

TEL：080-4228-5356 (10時～15時)

FAX：052-811-1812

<http://locoplace.jp/t000095629/>

~~~~~

## アレルギーが心配な人集まれー！

11月5日、大府市民活動センター「コラビア」にて行われました。

10時よりアレルギーや喘息の心配なお母さんと子ども合わせて、11名が参加しました。

はじめに、自己紹介をしてから、特定非営利活動法人 アレルギー支援ネットワークの常務理事 中西 里映子 さんを招いて、食物アレルギーや喘息に関するお話を詳しく聞けました。

喘息は、ダニやハウスダストによる影響で、部屋の掃除も大切ですが、寝具のクリーニングも重要で、自分で洗うとしっかり中まで乾燥をさせることが難しいため、専門の業者に依頼したほうが安心とのことでした。

名古屋市は、生活衛生センターに問い合わせることによって、自宅の寝具のダニも調べることが出来るようで、恐いもの見たさでやってみようと思いました。

質問や意見など気軽に発言することができ、

和やかなムードで行われました。

避難されてこられ、地域の情報は分かりづらくアレルギーの専門の医療機関や先生の情報を教えていただきました。

各地域で行っているアレルギーの会の紹介により地域とのつながりの大切さを知ることができ、小学校や幼稚園に上がる時の必要な情報なども学ぶことが出来ました。

今回第一回目として、アレルギーの心配な人集まれー！を開催することができましたが、会場の場所が遠いなどしてなかなか行きづらいこともあります。

アレルギーの心配な母として、同じ不安を持っている避難者同士の交流や、普段の子育ての悩みなども話せる場として、定期的に開催出来たらいいと思いました。

(関根 真奈美 名古屋市西区 在住)



## 「秋の交流会」に参加して

10月27日（日）愛知大学豊橋キャンパスで開催されました「秋の交流会」に、家族5名（私、妻、子ども（13歳、7歳、3歳））で参加させて頂きました。

会場の愛知大学豊橋キャンパスは、周辺に学生の生活に必要な商業施設が充実している上に、キャンパス内は広く落ち着いた環境にあります。私が20年ほど前に通っていた東北地方の大学を思い出し比べると、大変充実しており時代の流れを感じると共に羨ましく感じられました。

交流会は、第1学生自習室に集まり、顔合わせと共に、今回の秋の交流会の担当の愛知大学豊橋キャンパスのたすけあいネット榊原さん、愛知県被災者支援センターの瀧川さんよりご挨拶を頂きました。台風の影響と朝晩の寒暖の差も激しいこともあり、当日に三世帯の方が欠席となったとのことで、わが家を含め4世帯12名と学生8名、被災者支援センター2名、愛知大学の西堀先生と、少し寂しいスタートとなってしまいました。

今回の会は運動の出来る服装でとのことで、それでは早速ということで体育館に移動し、学生の進行により、学生 Vs 子ども・保護者 & 支援者の方により、鬼ごっこからスタート… 先ほど少し寂しいスタートと書きましたが、そんな考えは全く無意味で、学生の巧みな進行に、子どもも大人も一気にテンションが上がり、その勢いのままドッジボールに突入。ドッジボールは、学生、参加家庭、支援者の方を全て半分



にしての対抗戦。更にテンションは上がりMAX状態、その後、子ども達は、学生達とのサッカー、ダルマさんが転んだなど、大はしゃぎで楽しんでいました。そんな子どもたちに触発されたのか、保護者の女性陣でバレーボールが始まり、気づくと私も支援者の方も交えて、バレーボールを楽しんでいました。

震災から三年目に入りましたが、それぞれの家庭が未だに元の生活までは程遠い生活を強いられており、ストレスも溜まっていたこともあり、久しぶりにいい汗をかくことが出来ました。楽しい運動も終わり、最初の第1学生自習室に戻り、子どもたちは学生と、お菓子やジュースを飲みながら、ぬりえ、わなげ、おりがみを楽しみながら過ごしていました。私たち大人は、支援者の方と被災地の現状、避難先での現状などの情報交換などいろいろな話で盛り上がり、終了予定時間を大幅にオーバーしてしまいましたが、大変有意義な時間を過ごすことが出来ました。

何度かイベントに参加させて頂いていますが、参加する度に支援センターの皆様を始め、本当に多くの方のご支援を頂いていることに感謝すると共に、被災者同士の繋がりも出来大変心強く、頑張っていこうという前向きな気持ちになります。

まだ、参加されたことのない方もいると思いますが、是非一度参加して頂きたいです。

（工藤 辰也 岡崎市 在住）



## 『第15回お茶っこサロンなごや』に参加して

お茶っこサロンへの参加を、毎回楽しみにしています。いつも楽しい企画を、ありがとうございます。

普段はなかなか訪れる機会のない、名古屋市内の観光スポットなどに行く企画などもあり、自分の住んでいる地域以外の、いろいろな場所を訪れることができ、大変ありがたいです。名古屋の良さを発見する、貴重な機会でもあります。

10月は「名古屋まつり」に合わせて、19日（土）に中区のナディアパーク内で開催されました。私と息子は、都合で途中からの参加となりましたが、みなさん温かく迎えてくださり、久しぶりにお会いした方々とも話がはずみ、あっという間に時間が過ぎてしまいました。

子どもたちは、折り紙コーナーでスタッフの方に教わりながら、折り紙で今人気の恐竜を見事に完成させ、たいへん喜んでいました。お茶っこサロンの後は、みなさんと名古屋まつりのパレードを観て、とても楽しいひと時を過ごしました。

私自身、被災した者としていろいろと悩み

を抱えていますが、お茶っこサロンでいろいろな方と話をすることで、少し心が軽くなって前向きにがんばろう、という気持ちになります。年代もさまざまで、いつも馴染みの方もいれば、初めてお会いする方もいますが、だれとでも話をしやすい雰囲気というのが、お茶っこサロンの魅力だと思います。スタッフの方には毎回声をかけていただき、相談すると親身になって応じてくださり、とても感謝しています。

震災に関連して、愛知県内に避難している方はたくさんいらっしゃいます。住み慣れた土地を離れ、それぞれ悩みを抱えて、慣れない土地で生活していると思います。お茶っこサロンは、初めてでもとても参加しやすい雰囲気なので、気軽に参加してみたいかがでしょうか。次回は11月24日（日）に、熱田区で開催されます。東北地方の秋の風物詩「芋煮会」を一緒に楽しみましょう。みなさんで鍋をつつけば、心も体もほかほかになると思います。

そのあとは、みなさんで近くの熱田神宮を参拝するのもいいですね。次回も是非参加させていただきます。

（安藤 まり子 名古屋市昭和区 在住）

### 支援センターからのお知らせ

愛知県被災者支援センターでは、朝日新聞（当日朝夕刊）、中日新聞（当日朝夕刊）、東京新聞（前日朝夕刊）、岩手日報（数日前朝刊）、河北新報（数日前朝刊）、福島民報（数日前朝刊）、福島民友（数日前朝刊）をお読みいただくことができます。

原則、支援センターの下記の開館日時であれば閲覧可能ですが、会議や作業などでご遠慮いただく場合もありますので、お越しいただく前にご連絡いただくとありがたいです。

愛知県被災者支援センター

名古屋市中区三の丸3丁目2番1号

愛知県東大手庁舎1階

利用時間 月～金 10:00～17:00

（土・日・祝・12/29 - 1/3 休）

TEL：052-954-6722 FAX：052-954-6993

- ・地下鉄名城線「市役所」駅（2番出口）から徒歩3分
- ・名鉄瀬戸線「東大手」駅から徒歩3分
- ・基幹バス「市役所」停留所から徒歩5分
- ・とよやまタウンバス「県庁前」停留所から徒歩5分

## 東日本大震災避難者交流会 「つながろう日本！ あつまろう静岡」 IN つま恋

日時：2013年11月9日（土）11:00～15:30

場所：ヤマハリゾート つま恋

主催：社会福祉法人静岡県社会福祉協議会

共催：静岡県

参加人数：

宮城21人、福島60人、その他の県8人

（※ 今回で2回目の開催）

### ・イベントの進行・オープニング挨拶：

静岡県社会福祉協議会 常務理事 神尾 好行

静岡県くらし環境部 管理局長 市川 克次

### ・復興状況の報告：

宮城県震災復興・企画部 福島県生活環境部

### ・食事ランチバイキング

& ちびまる子ちゃんとじゃんけん大会

### ・復興に向けた取組、現地状況の上映（協力：たすけあいジャパン）、餅つき（協力：ヤマハ労働組合）、とみおか子ども未来ネットワークの活動紹介など

### ・13:00からのフリータイムでは、各自交流、似顔絵（ウフフさんによる笑顔の似顔絵）、温泉、ポニー乗馬など

### ・15:30 閉会、全体写真撮影、解散

今回私は、東日本大震災支援全国ネットワーク（JCN）の協力委員のお手伝いで、避難している方に必要な情報、Webに載せられそうなチラシや支援団体の発掘するために参加し、静岡県の支援のありかた、避難されている方の声を聞くことが出来ました。

静岡県に避難した方の具体的な声と、静岡県の支援についての二つを報告します。



### 郡山市から自主避難された家族のお話

当時、里帰り出産で実家のいわき市で被災、2機目が爆発してすぐに実兄の所に避難、それから生活習慣の違いから、両親の実家がある静岡市に家族で避難してきたそうです。

事故後、いわきでは、消防車がサイレンを鳴らして、「外には出ないでください。窓を開けないで下さい」とアナウンスされていたそうです。テレビの言っている事は、嘘で、何が真実なのか分からなかったが、兄の言葉を信じて避難して良かったと、涙ながらに話してくださいました。

東電に対して、ADRや損害賠償として訴える弁護団があれば、自分たちも訴えていきたいとおっしゃっていました。私も同じでしたが、避難して新しい環境に慣れることで、いっぱいでもそまで手が回らなかったと話してくださいました。

静岡にも、個人的に話を聞いて各々がどんな気持ちで、今後どうしていきたいか一緒に考える必要があると思いました。

### 静岡県くらし・環境部管理局 政策監（被災者受け入れ担当）付 企画班長 清 真人 氏・川島 悟 氏からのお話 ～ 避難者の意向と生活再建を目指して ～

主な支援内容は、避難された方々に住まいとして民間のアパートを提供する、交流会の実施、アンケート、被災地の情報を伝える、長引く避難生活の相談窓口、静岡県には9つのボランティア団体がある。それぞれが、直接会いに伺ったり、地域の歴史を見に出かけてりしている。

静岡県も愛知県と同じような支援体制で、あまり変わらないことが分かりました。

今後は、先ほどお話を伺って、賠償請求権の時効が迫っている中、なかなか一歩踏み出す勇気が持てない方にも出来るように、弁護士や専門家に相談することを、皆さんに直接伝えていくことが大切ではないかと思いました。

（関根 真奈美 名古屋市西区 在住）

## 福島県 ホールボディカウンター車の巡回について

福島県では、県外に避難された皆様が、避難先のお近くでホールボディカウンター（WBC）による内部被ばく検査を受検できるよう、順次検査体制の整備を進めています。検査を希望される方は、下記によりお申し込みください。検査は申し込みの受付順となります。

### 内部被ばく検査とは

東京電力福島第一原子力発電所事故で環境に放出された放射性セシウムなど体内にある放射性物質から、概ね一生の間に受けるとされる線量を推計するための検査です。この検査により放射線を受けることはありません。また、痛みを伴うこともありません。

### 受検対象となる方

事故発生当時に福島県内に居住し、その後県外へ避難された方

### 福島県 WBC 車の巡回予定（一部抜粋）（スケジュールは平成 25 年 11 月 1 日現在）

検査機器を搭載した WBC 車が以下の日程で巡回し、検査を行います。

※その他の地域での検査は、スケジュールが決まり次第ホームページ等でお知らせします。

検査人数：1 日あたり 70 名程度

所要時間：受付から検査終了まで 30 分程度

受付 → 同意書記入 → 検査内容説明 → 体表面検査 → WBC 検査

検査費用：無料（※検査場所までの交通費については、各自負担いただきます）

### 愛知県に近い地域のご案内

#### 京都府：

京都府京都市

（京都府庁内職員福利厚生センター）

京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町

平成 25 年 12 月 13 日（金）～12 月 19 日（木）

#### 兵庫県：

兵庫県神戸市

（兵庫県庁 1 号館敷地内）

神戸市中央区下山手通 5 丁目 10 番 1 号

平成 25 年 12 月 21 日（土）～12 月 26 日（木）

※受検時間は、原則 9 時 30 分～16 時 30 分です。

※申し込みは、検査日の 3 日前（土・日・祝祭日除く）までをお願いいたします。

### 申込み先

福島県県民健康管理課

TEL（受付専用）：080-5743-5867

080-5743-5868

（受付時間：土日祝日を除く午前 9 時～午後 5 時）

内部被ばく検査に関する問い合わせ先

福島県県民健康管理課

〒960-8670 福島市杉妻町 2-16

TEL：024-521-8028

<http://www.cms.pref.fukushima.jp/>



## 「東北応援プロジェクト ～ 愛知県に避難されている方に暑中見舞いを送ろう！～」

### あま市立甚目寺中学校の取り組みから

甚目寺中学校生徒会では、東日本大震災の後、「東北応援プロジェクト」と題し、いろいろな支援活動に取り組んできました。

平成 23 年度の後期には、全校生徒に募金を募りました。そして、文部科学省「東日本大震災『子どもの学び支援ポータルサイト』」を通じて、宮城県亘理郡中体連に陸上大会に必要な物資をお送りすることもできました。

平成 24 年度は、今でも交流が続いている山元町立山下中学校や坂元中学校、気仙沼市立階上中学校に、応援旗や色紙、卒業を祝う「祝い羽根」などをお送りしました。また、この年の冬に、東日本大震災で被災された方が愛知県にたくさん避難されていることを知りました。そこで、1・2 年生の各学級から、寒中見舞いの手紙に「3 年生を送る会」と「卒業式」の招待状を添えて、甚目寺中学校の近くにお住まいの 13 家族にお送りしました。後日お返事をいただき、僕たちはその内容に心を打たれました。

そこで、今年度の「東北応援プロジェクト」として、「愛知県に避難されている方に暑中見舞い・寒中見舞いを送ろう！」という取り組みを計画し、県内のいくつかの中学校にもお声掛けをさせていただきました。すると、あま市内のすべての中学校と、市外にも協力してくださる中学校が見つかり、合計 10 校から 103 通の暑中見舞いをお送りすることができました。甚目寺中学校の手紙には、「学校祭」の招待状と手作りのミサンガ、四つ葉のクローバーのしおりを同封しました。残念ながら、前回も今回も、どなたも甚目寺中学校には来られませんでした。僕たちの思いが、少しでも避難されている方の心の支えになることができれば幸いです。

僕は、この 1 年半、甚目寺中学校の生徒会役員を務めさせていただき、この「東北応援プロジェクト」に関わらせていただきました。初め

のころの、「僕たちにできることがあるのだろうか…」といった悲しい気持ちは、今では「中学生にもできることがある！」との思いを実感するようになりました。僕たちにとって「東北応援プロジェクト」は、被災された方々の悲しみや苦労を、心と体で感じる取り組みで、後期生徒会による「愛知県に避難されている方に寒中見舞いを送ろう！」の原動力にもなっています。

最後に、「東北応援プロジェクト～愛知県に避難されている方に暑中見舞いを送ろう！～」にご協力をいただいた愛知県被災者支援センター・愛知県人権教育研究会・小坂井中学校・木曽川中学校・清洲中学校・八開中学校・大治中学校・七宝中学校・七宝北中学校・美和中学校・甚目寺南中学校のみなさん、どうもありがとうございました。

（あま市立甚目寺中学校 3 年 川瀬 拓磨）

甚目寺中学校生徒会の取組に共感した私たち小坂井中学校生徒会も、「東北応援プロジェクト」に参加させて頂きました。

被災者の皆さんにどのような言葉を掛けていいのか、初めはとても頭を悩ませました。私は、手紙に自分の素直な思いを込めながら綴ることにしました。

その後、自分の出した手紙に被災者の方から返事が届いたと聞いた時は、驚きと喜びでいっぱいになりました。その方は七十五歳の女性の方で、ご自身が作られたパッチワークの写真を添えてくださっており、自分の特技を生かして前向きに頑張っておられる姿がありました。私は、その女性の生き方に、尊敬の念を抱きました。私の苦しい過去にも共感してくださり、言葉一つ一つが温かく、優しく、私の背中を押してくださるものでした。

私は、この手紙のやりとりから、改めて、人の強さと優しさ、そして絆の大切さを学ぶことができました。今回、この「東北応援プロジェクト」に参加させて頂くことができ、本当に良かったと思っています。

（豊川市立小坂井中学校 3 年 後藤彩那）





遊び場

/// リトルワールド ///

世界の家と暮らしをテーマとした野外民族学博物館で、1日で世界一周した気分になれます。  
なんととってもその魅力は、世界各地から集めた家を訪ずれたり、料理を楽しめること。お土産もその地に行かなければ、なかなか手に入らないものが揃っています。もうひとつの楽しみは、民族衣装。いろいろな国の衣装があって、実際に着ることが出来ます。大人が着るのも素敵ですが、サイズがあれば、ちいさい子どものかわいいこと。シャッター押しまくりに…(体験済み^^;)季節に応じてさまざまなイベントも催されるので、チェックしてみてください。

料金：

大人・大学生 1,600 円  
シルバー（65 歳以上）※保険証など証明書を提示  
1,200 円  
高校生・留学生 ※学生証又は外国人登録証を提示  
1,000 円  
小・中学生 600 円  
幼児（3 歳以上）300 円

住所：愛知県犬山市今井成沢 90-48

TEL：0568-62-5611

交通アクセス：

名鉄犬山線犬山駅より岐阜バスコミュニティで 20 分  
(大人 片道 480 円)

駐車場：乗用車 1,200 台  
(料金 800 円 ※12 月～2 月は 500 円)

営業時間：3 月～11 月 9:30～17:00  
12 月～2 月 10:00～16:00  
※1 月、2 月の土日祝は 16:30 迄

休館日

7 月第 2 週目の月～金曜  
(2013 年 7 月 8 日～7 月 12 日)  
12～2 月の水・木曜日  
(但し、冬休み期間中は閉館)  
12 月 31 日

皆様からの情報をお待ちしています。

◆ 応募方法

- ◎ メールまたは FAX にて  
E-mail：aозora@aichi-shien.net FAX：052-954-6993
- ◎ 文字数：1 情報につき 200 字以内
- ◎ 氏名・現住所・電話番号を明記してください。  
(実名・匿名・ペンネームなど、掲載の表記希望をお知らせください)

※ 掲載時、こちらで編集したり、内容によっては掲載不可となる場合もあります。その他、相談させていただく場合があることを、ご承知おきください。

遊び場

/// モンキーパーク ///

約 70 種 900 頭の世界の珍しいサルを飼育展示している「世界サル類動物園」と、30 種類以上の様々なジャンルのアトラクションが揃う「遊園地」が併設された一大レジャー施設です。夏には屋外レジャープール「水の楽園 モンブル」もあり、季節ごとのイベントもあって楽しめます。

動物園は、テナガワモザルの島やリスザルの島、モンキーバレイなどの自然に近い形でサルたちの本来の生態を観察できるように工夫が凝らされています。サルに関する学習の場としての役割を果たして、京都大学霊長類研究所が隣接していることから、その充実ぶりがかがわれます。

入園料（動物園・遊園地共通）

おとな（中学生以上）1,600 円  
こども（2 才以上）800 円

ワンデーパスポート（入園＋のりほうだい券）

大人（中学生以上）3,900 円  
小学生 3,200 円  
幼児（2 才以上）2,400 円

のりほうだい券 ※園内チケットボックスにて

大人・小学生 2,800 円  
幼児（2 才以上）2,100 円  
のりもの回数券 2,000 円（2,300 円分）

営業時間：

12 月 1 日～12 月末日 全日 10:00～16:00  
1 月 1 日～2 月末日 平日 10:00～16:00  
土日祝 10:00～16:30

※季節・曜日により予告なく変更する場合があります

全園休園日：

2013 年 12 月 31 日及び 2014 年 2 月 12 日

駐車料金：3 月～12 月上旬 1,000 円

12 月中旬～2 月 500 円

交通アクセス：

犬山駅下車犬山駅東口より岐阜バスコミュニティ  
(日本モンキーパーク行き)で約 5 分  
バス料金(片道)大人 160 円/小児 80 円

所在地：愛知県犬山市犬山官林 26

TEL：0568-61-0870 FAX：0568-62-0336

※ これらは、さまざまな方々から寄せられた情報を元に掲載しています。  
掲載された情報元にご確認のうえ、皆様の判断でご利用ください。

/// 覚王山日泰寺の縁日（毎月21日） ///

なんだニニは、単鴨か?!

初めて行った時の私の第一印象です。「おばあちゃん  
の原宿」として名高い単鴨を連想させるものがあります。ただで、若い人やお子様にもお勧めです。覚王山は名古屋の高級住宅地であると同時に、学生町でもあります。昔ながらのお店と、今風のおしゃれでハイセンスなお店が混在しています。

若いアーティストたちの活動拠点として機能している面があるかと思えば、近くのブティックのラインナップに、リボンの着用や袖や裾のポリウレタン出し方など「名古屋嬢」を感じたりもする、多様性・多面性のある街です。縁日や近隣のお店に常備してある「覚王山マップ」も、どうぞご参考に。

縁日は、二のお寺から参道一帯に商店が出ます。お祭りの露店という感じのお店はむしろ少なく、全国各地から特徴のあるお店が集結しているといった風情。参道のかわいいお店や昔ながらのお店も、二の日は露店を出します。

二の縁日は、弘法様の縁日とも言われており、日ごろは閉まっている参道周辺の小さな祠をひとつひとつお参りして回るのも楽しいです。重たげな小袋から取り出した小銭を、少しづつお賽銭に使うて回るお年寄りも時々みられます。きっと二の日のために

一か月間、小銭を貯めていらっしゃるのでしょう。

そういう（おそらく縁日常連の）方々同士が、「元気だった?」「生きてた?」と笑顔でご挨拶している様子も微笑ましい。

日泰寺はタイ王室との縁が深い寺でもあり、独自の歴史があります。二の辺りに象の置物などが置かれているのはそのため。

春祭り・夏祭り・秋祭りなど、折々のイベント時には、子ども向けの工作コーナーや、近隣のおしゃれなお店の出店率が高くなり、ますます多様な年齢が楽しめます。

単鴨ほど広い範囲でなくコンパクトにまとまっているため、さほど歩き回らずに全体を観ることができ、身体の負担も少ないです。

どうぞ、お出かけくださいませ。

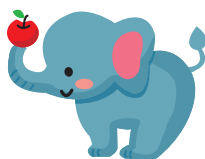
日時：毎月21日、9時頃から 3時頃まで

場所：覚王山日泰寺参道一帯と境内

交通：地下鉄東山線覚王山下車、1番出口すぐ

車の場合、参道は車両通行止め（歩行者天国）ですし、もともとコインパーキングの少なめな地区なので、最寄りでするのは難しいかもしれません。地下鉄一駅前の池下あたりでコインパーキングに止めて、一駅地下鉄利用で来られる方が無難かと思います。

おでかけ



皆様からの情報をお待ちしています。

◆ 応募方法

◎ メールまたはFAXにて

E-mail : aozora@aichi-shien.net FAX : 052-954-6993

◎ 文字数：1情報につき200字以内

◎ 氏名・現住所・電話番号を明記してください。

（実名・匿名・ペンネームなど、掲載の表記希望をお知らせください）

※ 掲載時、こちらで編集したり、内容によっては掲載不可となる場合もあります。その他、相談させていただく場合があることを、ご承知おきください。

※ これらは、さまざまな方々から寄せられた情報を元に掲載しています。掲載された情報元にご確認のうえ、皆様の判断でご利用ください。

# 「広域避難をされた方々の現状を正しく理解し、今後のより有益な支援等につなげるためのアンケート調査」調査結果のご報告

<実施機関> 名古屋大学大学院環境学研究科社会学講座黒田由彦研究室

<調査責任者> 教授 黒田 由彦 / 担当・まとめ 浅井 南(修士課程 2 年)

## <はじめに>

2013 年 9 月に実施した表題のアンケート調査の際には、ご協力をいただき、誠にありがとうございました。このアンケートの回収率は 41.7%です。

## <調査結果の概要>

### 1. 回答者の性別・年代・住居等

回答者の性別は、男性が 30%、女性が 69%でした(無回答 1%)。回答者の年代ですが、幅広い年代からご回答いただきました。最も多い年代は 30 代(30%)、次いで 40 代(24%)でした。性別で分けてみると、男性より女性の方が年代の偏りが大きく、女性は 30～40 代の占める割合が約 6 割となっています。

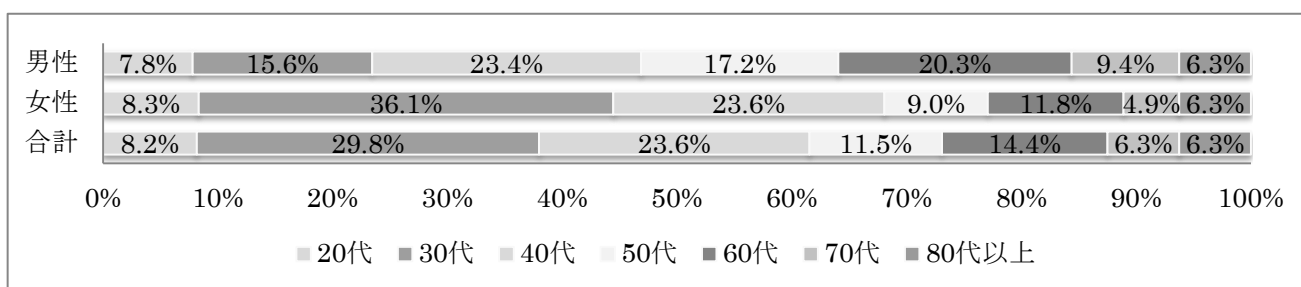


図 1 回答者の年代

表 1 都道府県別の被災時住所

|        | 回答者数 | 有効パーセント | 累積パーセント |
|--------|------|---------|---------|
| 岩手県    | 20   | 9.4%    | 9.4%    |
| 宮城県    | 36   | 17.0%   | 26.4%   |
| 福島県    | 134  | 63.2%   | 89.6%   |
| 山形県    | 1    | 0.5%    | 90.1%   |
| 関東     | 21   | 9.9%    | 100.0%  |
| (茨城県)  | 5    | 2.4%    | 92.5%   |
| (栃木県)  | 2    | 0.9%    | 93.4%   |
| (千葉県)  | 5    | 2.4%    | 95.8%   |
| (埼玉県)  | 5    | 2.4%    | 98.1%   |
| (東京都)  | 3    | 1.4%    | 99.5%   |
| (神奈川県) | 1    | 0.5%    | 100.0%  |
| 合計     | 212  | 100.0%  |         |

被災時の住所を都道府県別で見ると、表 1 のとおりです。回答してくださった方は、1 都 9 県にわたります。岩手・宮城・福島の東北 3 県から避難されている方が 90%を占めます。前回調査(2012 年 5 月、名古屋大学黒田研究室実施)では、岩手・宮城・福島の東北 3 県の合計が 94%でした。2013 年 9 月 30 日現在での愛知県受入被災者登録制度の登録状態は、岩手県 6%、宮城県 18%、福島県 62%、その他地域が 14%ですので、本調査の結果と大きな差はないと判断できます。

被災時の住所を市町村別で見ると、原発事故の警戒地域(自治体全域)が 6%、警戒地域(一部地域)が 12%、それ以外の福島県内が 46%、その他地域が 36%でした。つまり、立ち入り制限・禁止された地域から避難してきた人が全体の約 2 割を占めています。この値は前回調査では約 3 割でした。

また、現住所は愛知県全域に散らばっており、前回調査と同様の結果でした。



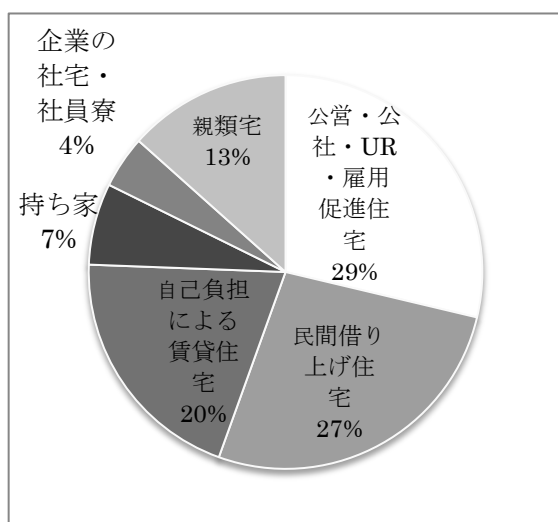


図2 住居の形態

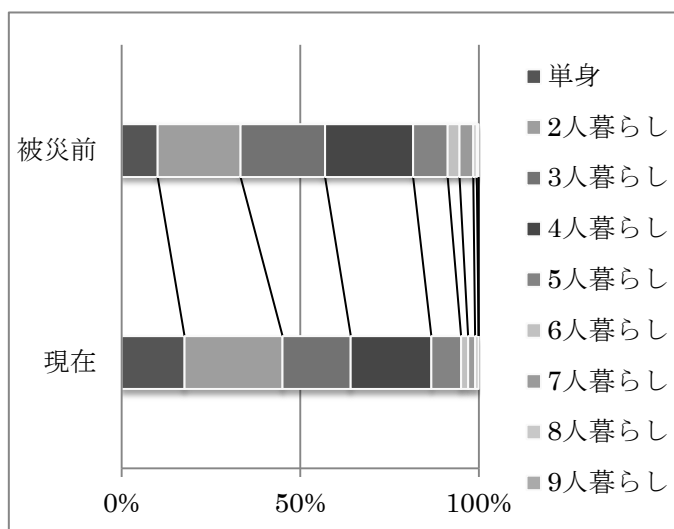


図3 同居家族人数の変化

現在の住まいに定住・仮定住した年については、2011年と答えた方が66%と最も多く、2013年になって定住・仮定住された方はわずか7%でした。現在の住居形態については、図2に示します。前回調査と同じく何らかの形で家賃補助のある住居に住んでいる人が半数以上を占めています。図3は同居家族人数の変化です。被災前に比べ、単身世帯や2人暮らし世帯が多いことがわかります。

未成年の子供と母子・父子避難している世帯の割合をみると、有効回答193票の約2割にあたる40票が母子・父子避難していることがわかりました。それを被災時の住所別でみると、関東その他地域、福島県(警戒区域外)、福島県(警戒区域)の順に割合が高いです。さらに、被災地でまだ生活している家族がいるかどうかを尋ねた結果、有効回答194票の36%にあたる70票で、被災地でまだ生活している家族がいることがわかりました。

## 2. 今後の見通し・家計の状況

愛知県に住民票を移動していないと答えた方は、有効回答211票のうち40票でした。その理由について複数回答可でお尋ねしたところ、福島県の警戒区域から避難されていて住民票を移動していない方の約6割が「東電の賠償が心配であること」を挙げています。

今後の定住先について、被災時の住所別に示したものが図4です。「愛知県に定住する」と「わからない」に分かれています。この傾向は前回調査と同様でした。

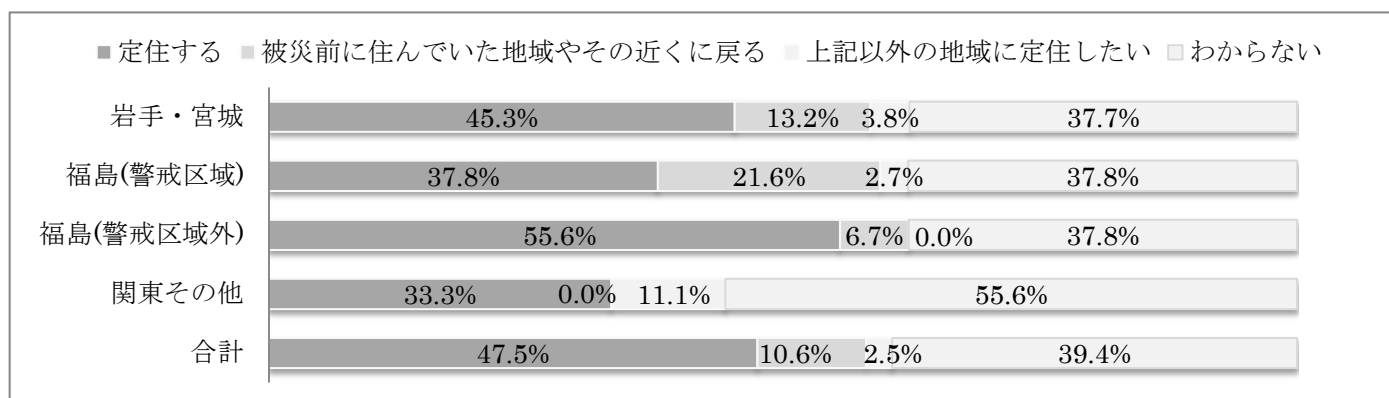


図4 今後の定住先

公営住宅や民間住宅借り上げなど、県の住宅借上制度を利用している方は、有効回答 199 票のうち 114 名(57%)でした。来年度家賃が発生したときの見通しを尋ねたところ、「払える見通しがある」と回答した人は 18%、「払える見通しがない」が 28%、「払える見通しはわからない」が 39%、「その頃には愛知県外に移る」が 6%、「その他」が 8%で、前回調査と同様の結果でした。昨年と同じく、家賃負担に不安を抱えている家計の状況がうかがえます。毎月の家計の状態について尋ねたところ、「余裕がある」と回答した人は 3%、「余裕はないが生活はできる」が 40%、「ぎりぎり生活できる」が 34%、「足りない」が 23%でした。「ぎりぎり生活できる」と「足りない」を合わせると 57%で、前回調査の 42%を大きく上回り、約 6 割の家庭で厳しい状況にあることがわかります。

表 2 生活費の工面 (複数回答)

| 生活費の工面        | カッコ内は前回結果            |
|---------------|----------------------|
| 自ら働いて得た収入     | <b>62.4%</b> (47.8%) |
| 貯金の取り崩し       | <b>36.6%</b> (48.3%) |
| 被災地にいる家族からの送金 | <b>14.9%</b> (21.0%) |
| 東京電力からの賠償金    | <b>14.4%</b> (23.6%) |
| その他(年金等)      | <b>12.9%</b> (21.0%) |
| 義援金などの支援金     | <b>10.9%</b> (15.9%) |
| 生活支援貸付など公的資金  | <b>5.9%</b> (4.5%)   |
| 親戚・知人の援助      | <b>5.0%</b> (8.9%)   |
| 失業保険          | <b>2.5%</b> (5.1%)   |
| 回答者数          | <b>202</b> (157)     |

生活費の工面について見たのが表 2 です。割合で多いのは、「自らが働いて得た収入」、「貯金の取り崩し」であり、次いで「被災地にいる家族からの送金」、「東京電力からの賠償金」が続いています。前回調査よりも、「貯金の取り崩し」の割合が 10%ほど減少し、「自らが働いて得た収入」の割合は 15%ほど増加、「東京電力からの賠償金」は 10%ほど減少しました。

次に働いている人の状況をみると、被災前では正社員と非常勤・パートの割合は 6 : 4 でしたが、現在では 4 : 6 と逆転しています。つまり自ら働いて収入を得ている世帯が多いといっても、被災前と同じような収入を得ているとは考えにくく、それは家計の状況が厳しい世帯が増加していることから伺えます。

### 3. 人間関係や地域とのつながり

様々な所属団体での活動頻度についてお尋ねしたところ、「市民活動団体」など大きな変化が見られない項目もありましたが、「町内会・自治会」と「趣味・同好会等クラブ」で、表 3・4 で示したように加入している人の割合や活動頻度の目立った減少が見られました。この結果から、被災前の生活と比べて、団体に所属して積極的に活動できる余裕がもてなくなっていることが伺えます。

表 3 町内会・自治会への所属・活動頻度

|     | 積極的に参加       | あまり参加しない     | 加入していない      | 合計                       |
|-----|--------------|--------------|--------------|--------------------------|
| 被災前 | <b>29.7%</b> | <b>32.3%</b> | <b>38.0%</b> | <b>100.0%</b> (回答者数 192) |
| 現在  | <b>14.4%</b> | <b>31.9%</b> | <b>53.7%</b> | <b>100.0%</b> (回答者数 188) |

表 4 趣味・同好会クラブへの所属・活動頻度

|     | 積極的に参加       | あまり参加しない    | 加入していない      | 合計                       |
|-----|--------------|-------------|--------------|--------------------------|
| 被災前 | <b>23.9%</b> | <b>7.6%</b> | <b>68.5%</b> | <b>100.0%</b> (回答者数 184) |
| 現在  | <b>8.3%</b>  | <b>5.0%</b> | <b>86.7%</b> | <b>100.0%</b> (回答者数 181) |

交流会への参加回数をみると、有効回答 202 票のうち、6 回以上参加した人は 30 票(15%)、3～5 回は 47 票(23%)、1～2 回は 53 票(26%)、0 回は 72 票(36%)でした。次に参加回数別に今後の交流会参加意思を見たものが図 5 です。参加回数が多いほど、参加意思が意欲的である傾向が明かです。

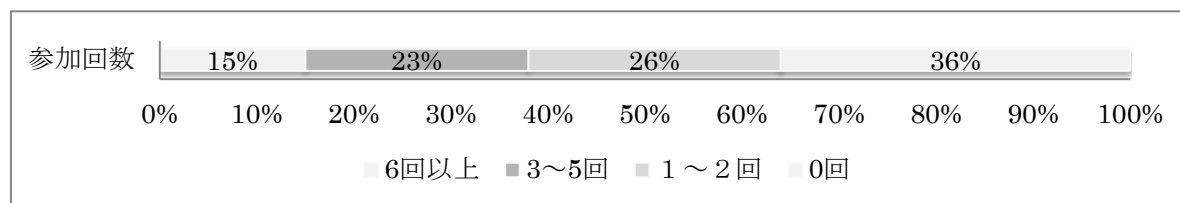


図 5 交流会への参加意思

交流会で得られたもの(複数回答)については、前回調査と同様に同郷の人達との会話(60%)が最も多いです。その後、支援者・支援団体とのつながり(47%)、避難者同士のネットワーク(37%)と続いています。

避難や避難生活に関するお考えを尋ねる質問群では、ほとんどの質問で比較的どの選択肢にも回答があり、避難されている方のお考えが様々であることがわかりました。しかし、「避難先での人間関係」と「国や社会の対応」を尋ねる質問では、それぞれ「避難先で新しい人間関係を形成したい」、「国や社会は被災者に対して不公平な対応をしている」と回答される方が多い傾向にありました。

#### 4. 支援への評価・要望

愛知県被災者支援センターの取り組みについて、「評価できる・やや評価できる」と答えた方の割合を項目別にみると、「お米の配布」が 92%と最も高く、以降「定期便での情報提供」(88%)、「交流会の開催」(76%)、「子供向け各種支援」(64%)と続いています。「日々の暮らしに関する相談」、「見守り活動」、「専門家の紹介」については、「評価できる・やや評価できる」と「評価できない・やや評価できない・わからない」がほぼ半数で評価が分かれました。

現在の生活満足度について尋ねる質問群では、ほとんどの質問で家計の状況が厳しいほど満足度が低い傾向にあることがわかりました。特に、住まい、健康・医療、就労、子育てでそうした傾向がみられました。しかし、離れて暮らす家族に関することについては、家計の状況に関わらず全体的に満足度が低い傾向にありました。

今後必要だと感じる支援を尋ねる質問群については、全ての質問で「必要である・やや必要である」と答える方が「あまり必要でない・必要でない」と答える方を上回る結果でした。しかし、家計の状況別にみると、住まいや就労の支援に関しては、家計の状況が厳しい方ほど強く求める傾向が見られました。3 ページで既にみたように、貯金や賠償金を生活費に充てられなくなってきており、加えて避難による転職・離職等で収入が減少している現状が伺えます。住まいの支出は生活費の大部分を占め、就労の状況は収入に直結することから、家計の状況を改善する支援が強く望まれていることがわかります。

#### <おわりに>

紙幅の都合上、調査結果の概要をお伝えするにとどまりましたが、本調査では約 7 割もの方が自由回答欄に沢山のご意見をお寄せくださいました。現在避難生活で直面している深刻な状況についてつづられた方も少なくなく、これまでの支援活動だけではまだ十分に支援が行き届いていない方が多くいらっしゃるということが明らかになりました。今後のよりよい支援につなげるため、近く皆さまから頂戴したご意見をまとめた報告書を作成する予定です。